

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	京都産業大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	キョウトサンギョウダイガク
	大学等名1(代表大学等)学校所在地	近畿地方(大阪府を除く)
	大学等名1(代表大学等)学校種別	私立大学
	大学等名2(連携大学等)	
	大学等名2(連携大学等)学校所在地	
	大学等名2(連携大学等)学校種別	
	科目名	メディア・コミュニケーション インターンシップ
	学部・研究科等名	外国語学部 ヨーロッパ言語学科 メディア・コミュニケーション専攻
	担当教職員名・役職	田畑恒平・准教授
	受講者数(H29年度実績)※インターンシップ参加者数	13
受入企業等数	3	
受入企業等名	J:COM WEST、特定非営利活動法人コミュニティラジオ京都、合同会社 ワイヤフレームズ	
インターンシップの分類	8.大企業・グローバル企業でのインターンシップ 9. 中小企業でのインターンシップ 10. 地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ	
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事
	1-2.以外の就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	放送されるコンテンツの企画制作放送等の運行業務WEBサイト・コンテンツの制作管理
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	3.当該インターンシップは、専門教育科目として実施している 5.当該インターンシップは、選択必修科目として実施している 8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.以外で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	3年次
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	2単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	メディア・コミュニケーション専攻の必修選択科目として、8~9月に実施。(事前/事後授業も同時期)対象学年は主に3年だが、留学などの関係から、稀に4年次生の参加がある。
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用法等を身に付ける授業等を行っている 2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている 3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている 4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している 5.その他
	3-2-1.以外で実施している事前学習の内容(記述欄)	企業で制作するコンテンツについて事前に企画準備を進めてすぐに提案できるように準備する。
	3-2-2.該当する事後学習の内容	3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.以外で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面談を実施している
	3-2-3.以外で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	540分間の時間をかけて、社会人マナー、インターンシップの意義、企業への企画提出準備などを行っている
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	180分間の時間をかけて、インターンシップの成果(物)を振り返るとともに、振り返りシートを用意し、各自記入させ受け入れ先企業に提出している。企業はこれらをもとに最終的な学生の評価と評価コメントをフィードバックする仕組みにしている。

	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップ実施初日に担当教員が受け入れ企業を訪問し、今年度の取り組み状況についてチェックを行う
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	3.インターンシップによる到達度を具体的に示した評価基準(例:ルーブリック)を整備し、学生及び教員で共有している
	4-2.以外で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	自己評価シート兼企業からの評価シートを作成し、学生の振り返りを促すと共に、企業からのフィードバック(評価)を同載することで、一元的に学生が振り返ることのできる形にしている。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	2.事前・事後学習との組み合わせにより、計5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実施期間5～9日間事前学習1日企業でのインターンシップ実施期間 3～7日(企業によって異なる)事後学習1日
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.以外の実施期間の内容(記述欄)	
要素⑥	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	企業によってインターンシップ受け入れ期間が異なるため5～9日間と受講生毎にバラツキが出る。内訳は以下の通りである。事前学習1日(学内)、企業でのインターンシップ実施期間 3～7日(企業によって異なる)、事後学習1日(学内)。これ以外にも番組出演など、事後学習後に追加体験的なイベントもある。
	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してインターンシッププログラムを設計している 2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している 3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている 4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している 5.企業等と協働して作成した評価シートを活用し、具体的な効果を数値化して測定している 6.企業と協働して、PDCAを実施している
	6-2.以外で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
問い合わせ先	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	予め担当教員と企業の担当者が各年度の課題について事前協議を行う。その際、事前学習で必要な事項について企業側からリクエストがなされる。企業担当者はインターンシップ実施期間中はOJT的に学生に付く。また、事後の評価シートは受入企業からの評価とコメントが記載される。また、各年度末には担当教員と受入れ企業とで授業内容の改善点について協議する機会を設けている。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	シラバス <a href="https://syllabus.kyoto-su.ac.jp/syllabus/html/2018/3087.html">https://syllabus.kyoto-su.ac.jp/syllabus/html/2018/3087.html</a>
問い合わせ先	大学等名	京都産業大学
	担当部署名	外国語学部 ヨーロッパ言語学科 メディア・コミュニケーション専攻
	担当者役職名	准教授
	担当者氏名	田畑恒平
	電話番号	075-705-1461
	メールアドレス	koh@cc.kyoto-su.ac.jp